

心身共に健康な子どもをはぐくむ食に関する指導と校長の在り方

I 主題設定の理由

「食」は人間が生きていく上で基本的な営みの一つであり、健康な生活を送るために健全な食生活は欠かせないものである。

しかし、近年、食生活を取り巻く社会環境の変化に伴い、偏った栄養摂取や朝食欠食、孤食などの食生活の乱れが見られ、肥満傾向の増大、過度の痩身、また生活習慣病や小児成人病の増大などの問題が指摘されている。

特に成長期にある児童にとって、健全な食生活は健康な心身をはぐくむためには欠かせないものであると同時に、将来の食生活の形成にとって大きな影響を及ぼすものであり、極めて重要な問題となってきた。

このような折、文部科学省から平成12年3月「食に関する指導参考資料」が示され、平成15年3月には仙台市教育委員会から「食に関する指導の手引き」が出された。

そこで、仙台市校長会B地区では、地区内の小学校児童の食に関する実態はどうなっているのか、それを校長としてどうとらえ、どんな対策を取っているのか等について調査し、「心身共に健康な子どもをはぐくむ食に関する指導と校長の在り方」について探ることにした。

II 研究のねらい

- (1) 食に関する指導という観点から児童の健康についての実態を把握し、校長として取り組まなければならない課題を探る。
- (2) 明らかになった課題についての先進的な実践例を掘り起こすことにより、食に関する指導と校長の在り方を明らかにする。

III 研究の進め方

- (1) 第1年次（平成17年度）本年度
質問紙法によるアンケート調査を実施し

すことにより、校長としての指導・支援の在り方を明らかにする。

IV 研究の概要

(1) アンケート調査の内容・結果

① 「食に関する指導の手引き」の活用

手引きの活用状況(質問1-1)

活用状況	自校	センター
大いに活用している	3	0
時々活用している	33	18
ほとんど活用していない	6	11
計	42	29

自校＝自校給食校数 センター＝センター給食校数

手引きの活用方法(質問1-2)

活用方法	選択数	%
職員の研修	7	13.0
年間指導計画の作成	32	59.3
指導実践	45	83.3
家庭・地域との連携	10	18.5
その他	2	3.7

%は、「手引活用校数54」に対する割合

- ・ 指導実践の場や指導計画作成の際に資料として利用されている。中でも栄養士の配置されている自校給食校では85%という高い割合で活用されている。

② 指導全体計画作成状況・内容

指導全体計画の作成状況(質問4-1)

作成状況	学校数	%
作成している	37	0.5
作成していく予定	34	0.5
計	71	1.0

%は、「調査対象校数71」に対する割合

全体計画の内容(質問4-2)

内容	選択数	%
健康教育の目標	40	56.3
食に関する指導の目標	53	74.6
教科・領域等との関連	32	45.1
食に関する学年指導目標	36	50.7
給食指導目標	55	77.5
学年別指導目標	35	49.3
栄養指導目標	40	56.3
特別活動での指導内容	13	18.3
個別指導	10	14.1
家庭・地域との連携	28	39.4
その他	5	7.0

%は、「調査対象校数71」に対する割合

- ・ 調査時点で52%の学校が作成しており残りの学校でも作成を予定していた。内容では、各指導分野の目標が多く含まれるが、教科・領域との関連や家庭・地域との連携を盛り込んでいる学校も半数近い。

③ 食に関する指導について

指導者	自校(%)	センター(%)
担任	40 95.2	26 89.7
自校養護教諭	25 59.5	17 58.6
自校栄養士	40 95.2	0 0
給食センター・近隣校栄養士	1 2.4	19 65.5
校医	4 9.5	2 6.9
その他	4 9.5	2 6.9

自校＝自校給食(42校) センター＝センター給食(29校)

指導の内容	記述数	%
体の健康に関する	39	54.9
心の育成に関する	11	15.5
社会性の涵養に関する	6	8.5
自己管理能力の育成に関する	15	21.1
栄養指導	12	16.9
給食指導	3	4.2
その他	14	19.7

%は、「調査対象校数71」に対する割合

配慮の内容	記述数	%
担任との打ち合わせ	18	25.4
指導内容・方法	17	23.9
信頼関係づくり・実態理解	2	2.8
栄養士の非常勤講師発令	4	5.6
職員への栄養士活用推奨	2	2.8
栄養士・養護教諭への働きかけ	2	2.8
栄養士の負担加重	2	2.8
栄養士が入りやすい環境づくり	1	1.4
プライバシー保護 等	4	5.6

%は、「調査対象校数71」に対する割合

- 担任、養護教諭、栄養士が指導する場合が多い。自校給食校、センター給食校共に栄養士が指導に当たる割合も高い。その活用状況については検証を進めたい。担任以外の指導者の活用の在り方については、今後の取り組みに待つ部分が多い。

④ 食生活の課題と対策について

課題	選択数	%
朝食抜き	42	59.2
孤食	14	19.7
偏食がち	44	62.0
間食や夜食	10	14.1
栄養摂取の偏り	15	21.1
肥満傾向	19	26.8
ダイエット	2	2.8
アレルギー	38	53.5
外食・ファーストフード	18	25.4
その他	2	2.8

%は、「調査対象校数71」に対する割合

対策の内容・方法	記述数	%
保護者への啓発・情報提供	41	57.7
保護者への個別対応	9	12.7
保護者との連携	1	1.4
全校児童対象の指導	3	4.2
学級ごとの指導	10	14.1
個別の指導	15	21.1
指導方法の工夫	5	7.0
対策検討の場・方法	7	9.9
職員の研修	1	1.4
その他	5	7.0
食物アレルギーへの対策	30	42.3

%は、「調査対象校数71」に対する割合

- アレルギーなど食が身体に及ぼす影響について関心が高い。偏食、朝食抜きなど食習慣の乱れについて課題として捉えている。対策としては、便り等を利用した啓発や食物アレルギーへの対応などがあげられる。

(2) 先進的な実践例

① ○○小学校(旬産旬味の導入)

校区内の農家が育てた作物(朝採り野菜)をその日の給食の食材として利用している。

新鮮でおいしい野菜を食べることができ残食も大幅に減っている。

「食の楽しさ・味覚の大切さ・心の豊かさ」を育む大きな力になっている。今後、協力農家を増やし、充実・向上を目指している。

② □□小学校(給食センターの活用)

学校に給食を配色している給食センターの栄養職員を特別非常勤講師として要請し体の成長や栄養について指導を行っている。

体育科の年間指導計画に位置づけており専門的な内容について分かりやすく指導してくれている。

V 研究のまとめと今後の取組

(1) 校長としての取組について

① 意識の高揚を図る

便りを利用した広報などを工夫し、保護者・児童に食の大切さを自覚させ、実践への意識の高揚を図る。

② 校内組織の整備を図る

教職員の意識啓発を行い校内における指導組織を整備し役割を明確にする。

③ 連携・協力の推進

家庭・地域との連携、関係機関との連携を積極的に推進する。

(2) 今後の取組について

① 効果的な指導の工夫

先進校の特色ある実践に学び、効果的な食の指導の在り方について探る。

② 食の指導の定着化

今後、ますます必要度が高まる食の指導について、発展・拡大していくために必要な環境整備の在り方を研究する。